

フジクラ

12キワツの発振器発売

ファイバーレーザー用

フジクラは本年度中に12キワツマルチモードファイバーレーザー発振器の販売を開始する。ファイバーレーザーを搭載したレーザー加工機が、自動車や自動車部品に加え、鉄骨・鋼板部材などの市場へ広がる中、高出力で信頼性のあるレーザー発振器を開発。中期経営計画で目標とする全社営業利益率7%達成に向け、新規事業としてさらなる拡大を図る。

中計目標へ事業拡大

レーザー加工機は薄板金切断に加え、厚板鋼板切断など、さまざまな部材や用途で研究が進んでおり、1キワツ

以上のレーザー加工機の市場は2024年に1.5倍へ拡大するとみられる。国内では炭酸ガスレーザー発振器

を搭載した加工機の割合が依然として高く、今後、ファイバーレーザーへの更新需要が増加していくとの見方が実施し、大きな出力低

よび応用したもの。生産体制はレーザーダイオードチップなどのキー素材から発振器の組み立てに至るまでを垂直統合型で構築しており、顧客の要望に合わせた柔軟な供給体制を整えた。ファイバーレーザー事業部の担当者は「光ファイバー

融着機は世界でトップシェアを持っている。製造における上流から下流までファイバーレーザーに関する光基盤技術を網羅していることはわれわれの強みだ」と語る。

フジクラは「2020中期経営計画」の目標達成に向けて医療関係をはじめファイバーレーザーなどの新規事業分野の展開に注力する。今後、フレキシブルで異なるビーム形状やシングルモードファイバーレーザーの高出力化など顧客のニーズに対応し、さらなるファイバーレーザー事業の拡大を図る。